

2009

7 武士道

BUSHIDO.

The Soul of Japan

新渡戸稲造著
矢内原忠雄訳
李登輝解説

日本
の
魂
—
日本
思想
の
解
明
—

新渡戸博士は、孔子の教えは、「武士道の淵源」として突出して重要な役割を果たしている、と述べている。以下「儒教」について。

＜厳密なる意味においての道徳的教義に因れば、孔子の教訓は、最も豊富な淵源である。君主、父子、夫婦、長幼、ちりい、朋友間における「五倫の道」は、経書が中国から輸入される以前からわが民族の本懐が認められてこころであった。孔子の教えは、これを確認したに過ぎない。＞

経書とは、孔子が中国の聖賢の述作した書籍、儒学の教典、四書五経、九經、十三經などと云われる由である。大和民族は、経書導入のほるか以前から上掲の「人倫五常の道」の重要さを的確に認識していた、と李登輝氏も述べている。だが小生が幼少期脳裡に染み込まれる「仁義礼智信」は、戦後忘れられて久しい。

＜その淵源の何たるを問わず、武士道が自己吸収同化せる本質的なる原理は、少数かつ単純である。少数かつ単純ではあつたが、我が国民正史上最も不安定な時における、最も不安な日々においてさえ、安んずる処世訓を供給するには十分であった。—中略—

鋭敏なるフランスの学者連に於て「16世紀・日本の印象」と要約的に曰く。

16世紀の中頃、日本においては政治も社会も宗教もすべて混沌の中にあつた。16世紀から、内亂、野蠻時代に返るがごとく生活の仕方、各人が各自の権利を維持する必要、勇敢なる独創力、急速なる決心と決断的着手の習慣、実行と思慮との偉大なる能力」を賞讃された。

16世紀のイタリ人にならば日本人、日本において作り出した。日本において、イタリ人におけると同様、中世の粗野なる生活習慣は、人間をば「徹頭徹尾、闘争的抵抗的なる偉大なる動物となし、これこそ、日本民族の主要なる特性、故に彼らの精神をば交質における若くは複雑性の、16世紀における最高度に發揮せられた理由である」

16世紀の日本とは、広義に云はれる考へ方もあるが、1573年、桶狭間の戦いで織田信長の台頭にはじまり、1600年の関ヶ原の戦いまで考えられます。徳川家康の勝ち、17世紀の日本は、武士といふと「武」のみでは、立つことのできる、安定の時代に突入したのです。いわゆる「武士道」なるものがほぼ定着したのは、16世紀であり、さらに文化的に形式主義の磨きがかかったのは、徳川265年の泰平期でした。

「武士道」という言葉が一般的になつたのは、明治末後半になつてのことです。新渡戸博士の「英文・武士道」の公刊も、その契機になつたと考えられます。と云ふ、新渡戸博士の「武士道」は副題に「日本の精神」とあるが、武士を中心とする日本精神を説いたもの、「狭義の武士道」とは同じではない。

＜元来 武士は戦闘と職業とを兼ねる者として進んで来た。この階級は、長期間にわたる絶えざる戦闘の繰り返されてこころから、最も勇敢な、最も昌敏的な者の中より自らに徴募せられたのであり、これに淘汰の過程の進行するに伴い怯懦柔弱の輩は捨てられ、またも男性的之儀の之とを打ちわら粗野なる種族だけが残り、これにサムライの家族と階級とを形成したのである。

--- したがって、これに伴う大きな責任を背負ひ、彼らは直ちに、行動の共通規準の必要を感じた。武士道の萌芽である。

現在建造物の基本は鉄筋コンクリート。RC=Reinforced Concrete コンクリートの堅牢を、鉄筋の強靱が支える。RCの機構は、中心に鉄筋を配し、表裏二面の型枠を打ち立てた後、生コンを打設する。相対な衝撃で、鉄筋が揺れ動くと困る。だから鉄筋にはスパンを配してボルトで締る。鉄筋の存在を規制するからスパンの役割である。重要です。このスクリュースパンの御案内です。別添の黄色頁を御参照下さい。

スクリーパー

鉄筋取付用ボルト付 超高強度モルタル製
NETIS 登録番号 KK-050123-A

阪神大震災以来、RCの強さの問題が大きな課題となり、スパンも同様に、多くの工場でスパンの市場化されています。

数年前国土省がRCの留設に基いて丸備せんが、絶対的固定打のあるものを開発されました。モルタルの強度について研究を重視、文に於ては、鉄筋の黄色頁の強さ比較表を御参照下さい。NETIS登録は2006年です。

思いにこれは、一般の建築には勿体ない。高架橋などのHeavy Duty向中心に、対応しと考へおいた、お役立ち下さい。武蔵敬白